
2015年3月期決算説明会資料

2015/4/27

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 宮崎 正啓

執行役常務 宇野 俊一

2015年3月期決算説明会資料

1. 2015年3月期 決算概要
2. 経営方針
3. 2016年3月期 業績予想
4. セグメント別事業戦略
5. 補足資料

1. 2015年3月期 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2015年1月公表値)

2015年3月期決算(ハイライト)

(億円)

	2015年3月期実績	前期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,375	△16	△0%	△75	△1%
営業利益	441	+137	+45%	+31	+8%
経常利益	422	+111	+36%	+27	+7%
当期利益	281	+101	+56%	+17	+7%
一株利益	204円52銭	+73円41銭		+12円57銭	
一株配当	45円00銭	+15円00銭		±0円00銭	
ROE	9.8%	+2.8%		+0.6%	
FCF	249	+133		+99	

2015年3月期決算(セグメント別 売上高・営業利益)

(億円)	14/3		15/3(e)		15/3		偏差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	前年同期比	
							売上高	営業利益
電子デバイスシステム	1,173	205	1,268	180	1,245	172	+6%	△16%
ファインテックシステム	172	△72	99	△4	100	△7	△42%	—% (+66億円)
科学・医用システム	1,504	181	1,630	226	1,641	250	+9%	+38%
産業・ITシステム	933	6	841	3	849	1	△9%	△82%
先端産業部材	2,670	22	2,643	25	2,589	22	△3%	±0%
全社合計	6,391	304	6,450	410	6,375	441	△0%	+45%

(注)(e)は、前回予想(2015年1月公表値)

全社合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

売上高・営業利益 偏差説明(2014年3月期累計比較)

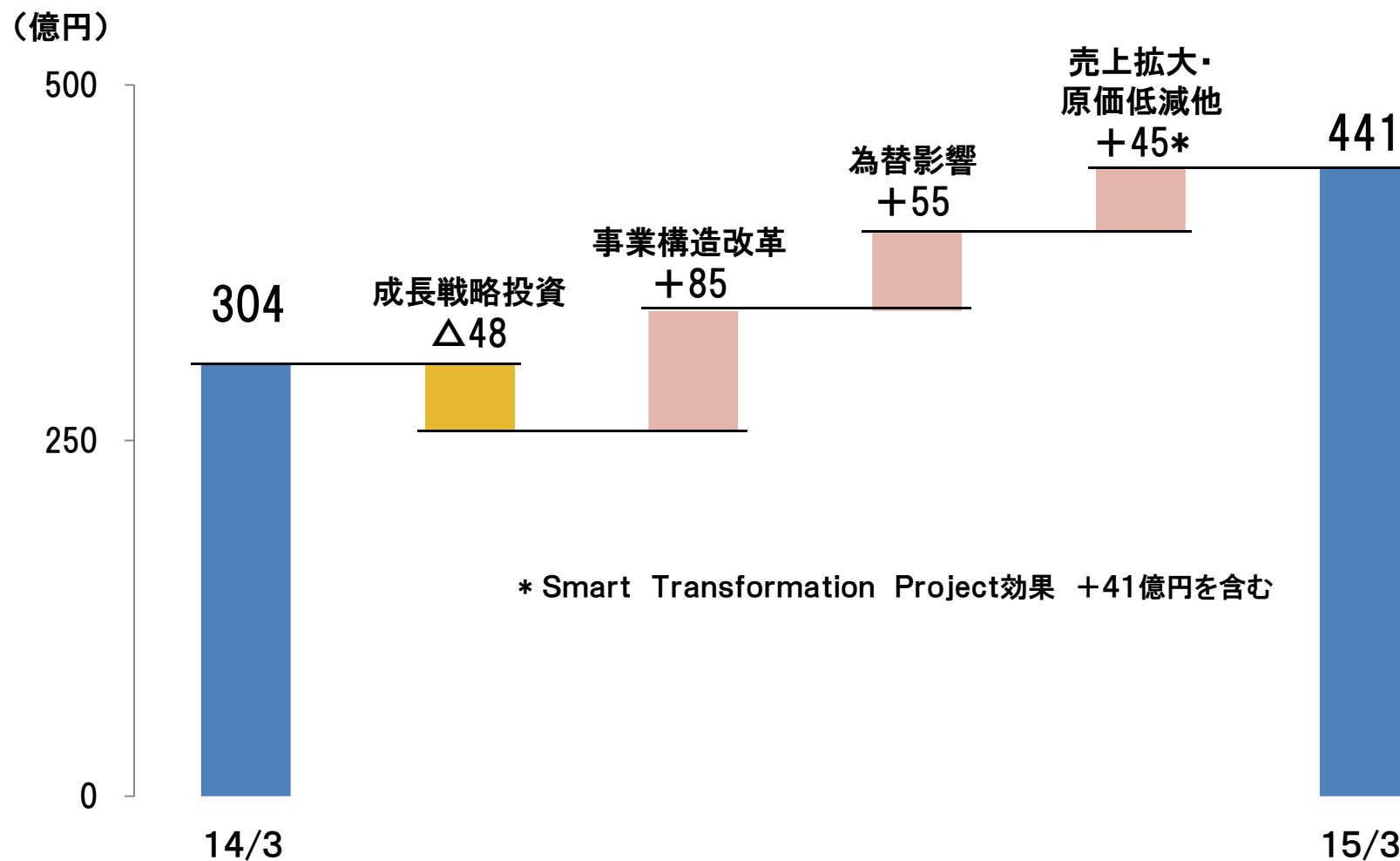
売上高 (6,391億円 → 6,375億円 Δ16億円)

- 科学・医用システム： 医用分析装置の新興国市場向け販売増および米国市場向けパッケージ販売増等により138億円増加
- 産業・ITシステム： 米国顧客向け携帯電話の販売減等により85億円減少
- 先端産業部材： エレクトロニクス関連部材の販売減等により82億円減少

営業利益 (304億円 → 441億円 +137億円)

- 科学・医用システム： 売上高と同様の理由により69億円増加
- ファインテックシステム： 事業構造改革効果等により66億円増加

2015年3月期決算(前期比増減要因:営業利益)



2015年3月期決算(貸借対照表[要約])

2015年3月末 (億円)

			14/3末比				14/3末比
流動資産		4,197	+427	流動負債		1,888	+179
現預金、関係会社預け金	1,542	+195		支払手形および買掛金	1,221	+164	
受取手形および売掛金	1,383	+32		その他	667	+15	
たな卸資産	897	+145		固定負債		455	△56
その他	375	+54		退職給付に係る負債	437	△56	
固定資産		1,169	△10	その他	17	△1	
有形固定資産	752	+1		純資産		3,023	+294
無形固定資産	126	△4		株主資本	2,994	+226	
投資その他の資産	292	△6		その他の包括利益 累計額合計	23	+66	
				少数株主持分	6	+1	
資産合計		5,366	+417	負債および純資産合計		5,366	+417

・ 1株当たり純資産:2,193円48銭(前期比 +212円48銭)

2015年3月期決算(キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)	15/3		15/3
営業活動による キャッシュ・フロー	345	財務活動による キャッシュ・フロー	△55
税引前利益	+401	配当金の支払	△55
減価償却費	+108	その他	△0
運転資金	+11	換算差額	+15
法人税等支払額	△124		
その他	△51		
投資活動による キャッシュ・フロー	△95		
有価証券の取得・売却	+9		
固定資産取得・売却	△131		
その他	+27		
フリー・キャッシュ・フロー	249		
			15/3
		現金および現金同等物	
		期首残高	1,336
		増減額	+210
		期末残高	1,546

2. 経営方針

2020年に向けた長期経営戦略:CS11 (Corporate Strategy 2011)

企業ビジョン

ハイテク・ソリューション事業におけるグローバルトップをめざす

戦略ステートメント

最先端・最前線の事業創造企業としてお客様と共に先頭を走る

ミッション

お客様が最先端・最前線の事業創造企業に
なっていたりするために最大限の貢献

“To Turn Our Customers into Fast-moving, Cutting-edge Businesses”



ハイテク・ソリューション提供

コア・コンピタンス
事業創造力

グローバル営業・
調達力

(商事機能)

技術開発・製造・
サービス力

(メーカー機能)

バイオ・
ヘルスケア

最注力分野として 重点投資

- 既存事業拡大、新分野・新事業積極展開
体外診断事業、バイオ関連事業、
ライフインフォマティクス

社会・産業
インフラ

当社コアコンピタンス として強化

- 基盤ソリューションの更なる活用
社会・産業を支える科学システム・商事事業、
再生可能エネルギー等狭義の社会インフラ事業

先端産業
システム

選択と集中による 収益性改善

- 最先端・成長領域に特化
注力：半導体評価装置事業・プロセス製造装置事業
撤退：チップマウンタ事業・ボンダ事業

1. 成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオ強化
2. 事業領域・地域特性を踏まえたグローバル成長戦略の加速
3. お客様視点での事業創造力の強化

“Challenge to Change” (変革への挑戦)

全体最適意識の浸透による自律分散型組織運営の実行

お客様の個別化ニーズにきめ細かく応えるべく、
高度に専門化の進んだソリューションビジネスを推進

3. 2016年3月期 業績予想

※ 2015年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表から、国際財務報告基準(IFRS)を任意適用することとしております。このため、2016年3月期の連結業績予想はIFRSに基づき作成しており、従来の開示内容を一部変更しております。

2016年3月期業績予想(ハイライト)

(億円)

	2016年3月期予想 <IFRS>	2015年3月期実績 <IFRS>(概算)*1	前期比(概算比較)	
			増減額	増減率
売上収益	6,770	6,380	+390	+6%
税引前利益	460	430	+30	+7%
当期利益	344	300	+44	+15%
EBIT*2	458	425	+33	+8%
一株利益	250円12銭	218円13銭	+31円99銭	
一株配当	55円00銭	45円00銭	+10円00銭	
ROE	10.5%	10.5%	±0%	
FCF	160	250	△90	

・想定レート:1USD=115円、1EUR=130円

*1 2015年3月期実績については概算で表示しております。

*2 EBIT (Earnings before interest and taxes) : 税引前利益から受取利息及び支払利息を除外した数値

2016年3月期業績予想(セグメント別)

(億円)		2016年3月期予想<IFRS>	
		売上収益	税引前利益
	電子デバイスシステム	1,138	195
	ファインテックシステム	161	4
	科学・医用システム	1,681	233
	産業・ITシステム	864	9
	先端産業部材	2,960	39
全社合計		6,770	460

(注) 全社合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

4. セグメント別事業戦略

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は今回予想

事業環境

- 2014年度は、モバイル関連機器(スマートフォン、タブレット)やSSDの成長により、ASSP、DRAM、NANDが堅調に推移し、前工程装置市場も前年度並みを維持
- 2015年度も、モバイル関連機器を中心にロジック・メモリー向け投資が堅調に推移する予想だが、一部顧客の投資時期など、今後の動向に不透明な部分も見込まれる
- 先端デバイス市場は、三次元構造や新材料向けの新たなニーズの創出により、新規ビジネス機会が期待される

ビジョン・基本戦略

1. ビジョン

先端産業分野における新たな価値を顧客と共に追求し創造する

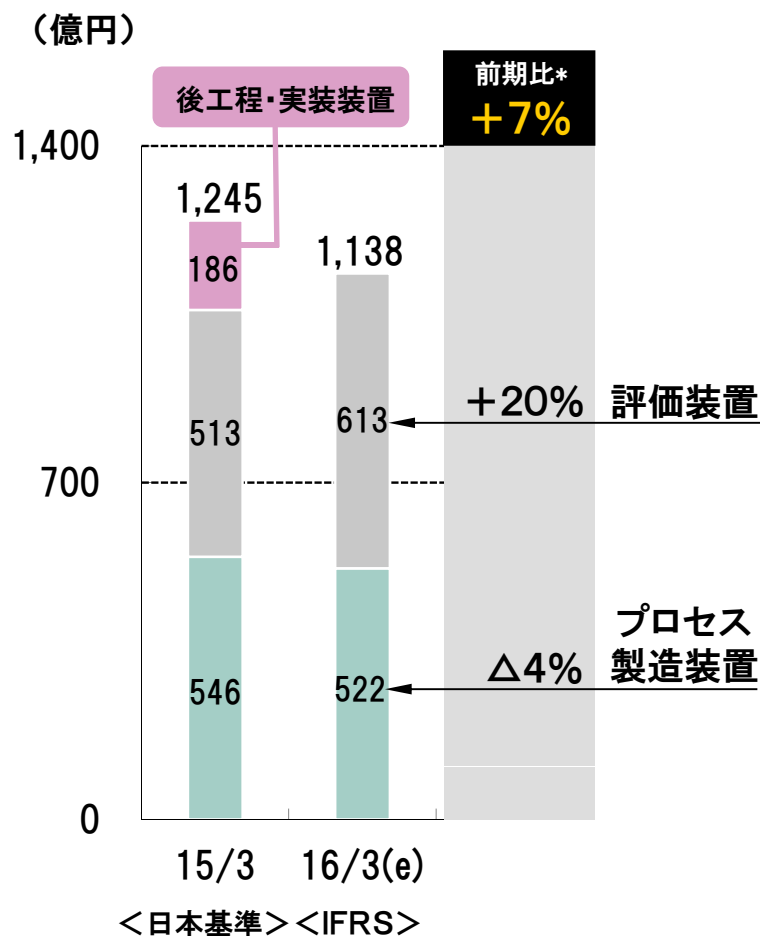
2. 基本戦略

- ①コア技術強化によるグローバルトップ製品の提供
・トップ性能の新型装置を開発・投入しシェア維持・拡大
- ②新しい価値創造による新分野への事業展開
・新たな顧客ニーズに対応した製品強化により新工程を獲得
(3D-NAND向け計測装置・エッチング装置、アッシング装置)
- ③サービス、システムソリューション事業の拡大



アッシング装置 HS-9050

売上収益の推移



* 後工程・実装装置含まず

15年度の具体的な取り組み

- 多重露光、三次元構造、新材料に対応したソリューション提供による顧客価値最大化
- ・プラットフォームをベースに新製品ラインアップを強化
- ・検査・計測アプリケーションを拡充

エッチングプラットフォーム
9000シリーズ



- 国内外開発拠点拡充による顧客対応力強化
- ・海外エンジニアリングサイト(米国、台湾)における顧客密着型開発
- ・顧客と協業できるセキュアな環境を整備し、次世代製品を先行開発
(新ラボ:MIC那珂*1設置)



MIC那珂

- サービス品質の向上およびCIP*2推進によるサービス事業拡大

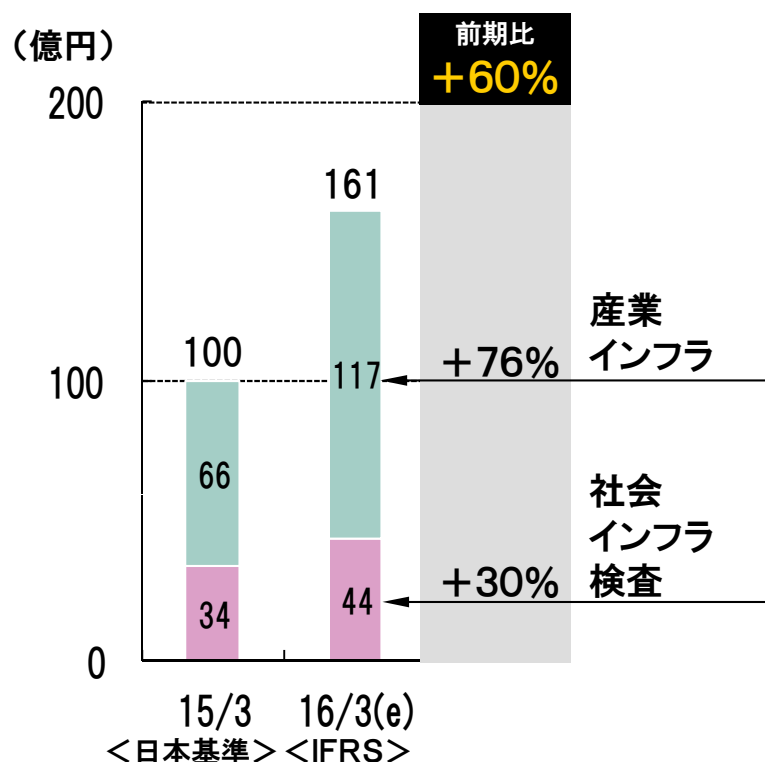
*1 MIC那珂: Metrology and Inspection Center 那珂

*2 CIP: Continued Improvement Plan

ビジョン・基本戦略

1. 社会インフラ検査・産業インフラ関連の伸長分野での事業拡大
2. コアコンピタンス(光計測、画像処理技術等)強化による事業の高付加価値化
3. サービス事業の拡大(ビッグデータ解析等の付加価値提供)

売上収益の推移



Hitachi High-Tech

15年度の具体的な取り組み

社会インフラ検査事業

- ・鉄道検測
営業車搭載検測装置の拡販、製品ラインアップ拡充、海外展開の推進
- ・送電線検査、道路・橋梁他
今後ニーズが拡大される社会インフラ検査領域の開拓



新幹線電気・軌道総合検測車
イーストアイ (JR東日本提供)

産業インフラ事業

- ・自動車関連設備の事業拡大
- ・ロボット技術活用、分析・検査技術分野等への展開による高付加価値自動化設備の提供

サービス事業

- 生産性・品質向上提案によるポストセールス展開

事業環境

■ 電子顕微鏡

環境・新エネルギー、新材料、ライフサイエンスなどの最先端分野において、超高分解能観察へのニーズに加え、精度の高い前処理や高感度な分析能力を持つ装置の需要が拡大

■ 科学機器

環境・新エネルギー、新材料、ライフサイエンスなどの最先端分野のサンプルに対応する、高精度でスループットの高い専用装置の需要が拡大

ビジョン・基本戦略

1. 電子顕微鏡事業におけるグローバルトップをめざす

- ・製品ラインアップの強化
- ・顧客市場規模の大きい環境・新エネルギー、新材料、ライフサイエンス分野への拡販

高い分析能力と
卓越した操作性
を持つFE-SEM

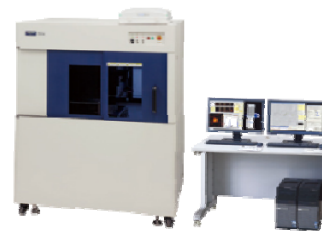
ラインアップ強化:
ショットキー走査電子顕微鏡
SU5000



2. 科学機器のグローバルメジャープレーヤーをめざす

- ・無機分析、有機分析装置のラインアップ拡充
- ・顧客ニーズを反映した専用機の開発強化と拡販
- ・グローバルマーケティング力強化による海外販売の拡大

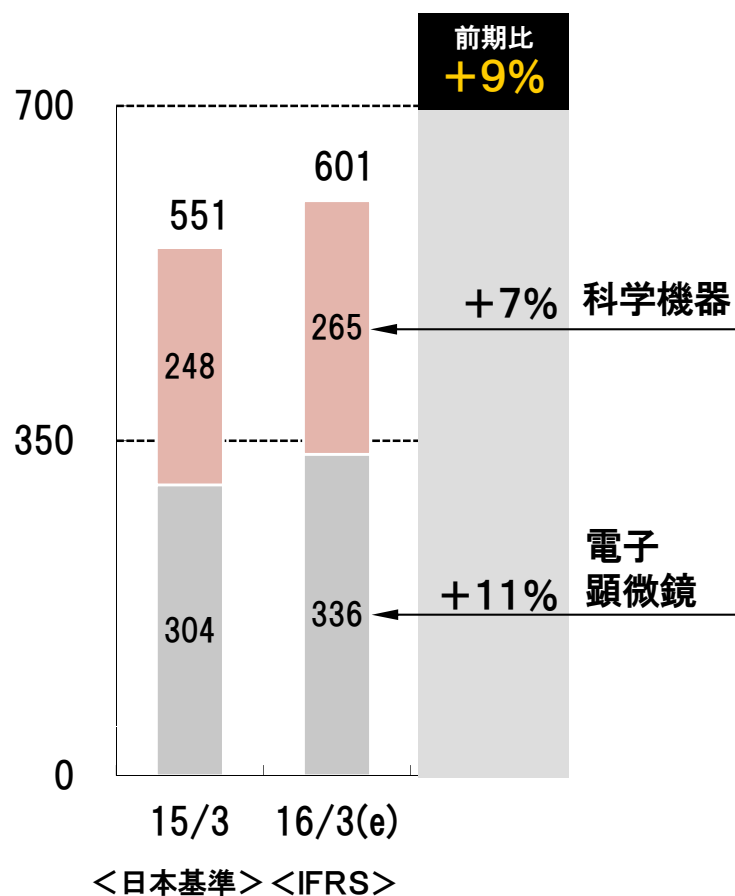
微小金属異物
混入原因を特定



専用機の開発例:
X線異物解析装置(LiB用)
EA8000

売上収益の推移

(億円)



15年度の具体的な取り組み

【電子顕微鏡】

- ボリュームゾーンへの戦略的新製品の投入・拡販と継続的な開発促進

《2014年度市場投入済の新製品》

- ①ショットキー走査電子顕微鏡 SU5000
- ②FIB-SEM複合(トリプルビーム)装置 NX2000
- ③卓上顕微鏡 TM3030Plus

【科学機器】

- 液体クロマトグラフ用新型質量検出器の投入によるライフサイエンス分野への拡販



高速液体クロマトグラフ
Chromaster® 5610質量検出器

- リチウムイオン電池／燃料電池用異物検査装置の拡販による環境・新エネルギー分野の深耕

- グローバルマーケティング強化と販売網活用によるワールドワイドでの拡販

事業環境

■ 生化学・免疫検査市場

欧州:南欧債務危機以来、装置更新サイクルが長期化傾向

米国:医療保険制度改革の立ち上がりによりテスト数は増加傾向にあるが、装置需要の伸びは限定的

中国:市場全体の成長を牽引しているが、政府の国産優遇策拡大により輸入製品導入の減少が懸念

■ 新規事業分野

コンパニオン診断など遺伝子検査市場の拡大が期待

ビジョン・基本戦略

1. 生化学・免疫検査事業

新型検体検査自動化システムと
モジュール方式自動分析装置の
パッケージによるシステムソリューション
ビジネスの推進

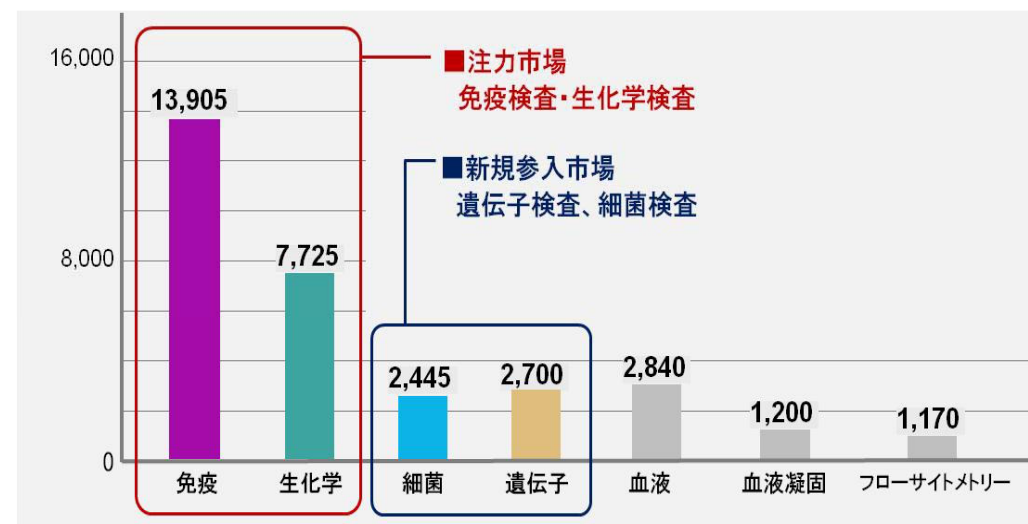
2. 細菌、遺伝子検査市場への参入

- ・イノベーティブな技術・製品の開発を強化・推進
- ・グローバルで強い試薬会社とのSCB*

*SCB: System Collaboration Business

■ 体外診断市場(2013年)

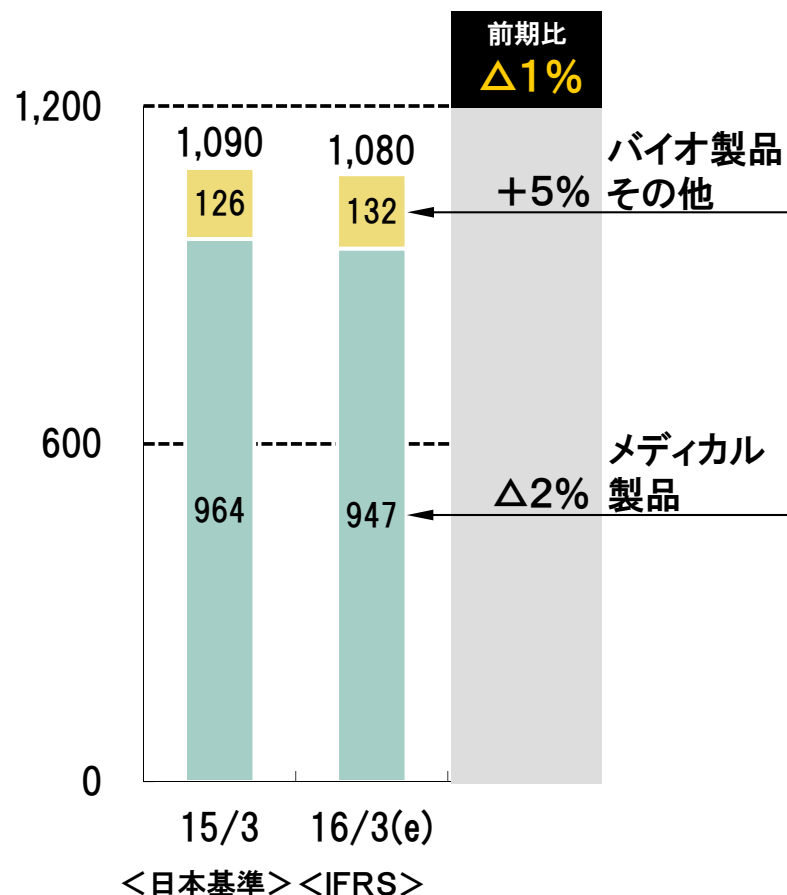
単位:百万米ドル



※Kalorama Information社データを参考に当社推定

売上収益の推移

(億円)



15年度の具体的な取り組み

■ 検体検査自動化システムによる囲い込み

20年以上にわたり培った検査業務効率化ノウハウとエンジニアリング力の世界展開推進

- ・cobas8100形自動化システムの米国市場投入による大形・中形自動分析装置とのパッケージ販売推進
- ・設計開発責任者の中国駐在によるソリューション提案力強化、市場ニーズの製品開発フィードバックの迅速化



cobas8100
検体検査自動化システム

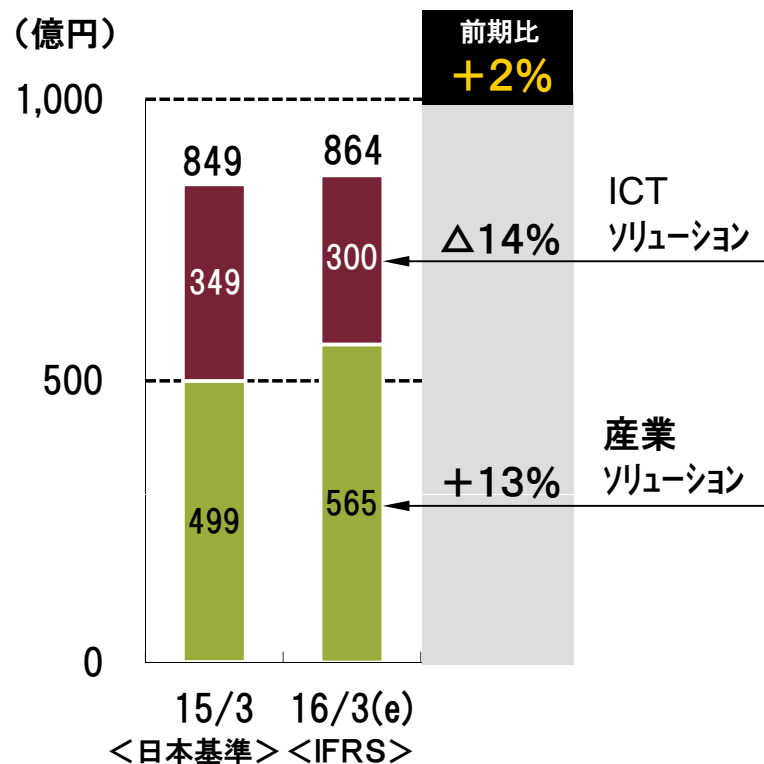
■ 細菌、遺伝子検査技術・製品の開発強化

- ・米国Nanosphere社製迅速細菌検査システムの国内販売立ち上げ
- ・前処理および分析(遺伝子の増幅・検出)の完全自動化装置を開発
- ・遺伝子検査市場をターゲットとした次世代DNAシーケンサの開発

ビジョン・基本戦略

1. ビジョン:産業・IT分野のオンリー・ワン・ソリューションプロバイダーをめざす
2. 基本方針:「高い専門性」「新しい価値創造」「高い信頼関係」「日立Gr.協業」を基本にCS向上を図る

売上収益の推移



15年度の具体的な取り組み

- 自動車関連製造装置および機器・コンポーネント販売の拡大
- 工業計器・計装システムにおける新製品開発
- 太陽光EPC*案件および関連部材の販売拡大
- IoT分野におけるソリューションビジネスの拡大
- グローバル展開の推進

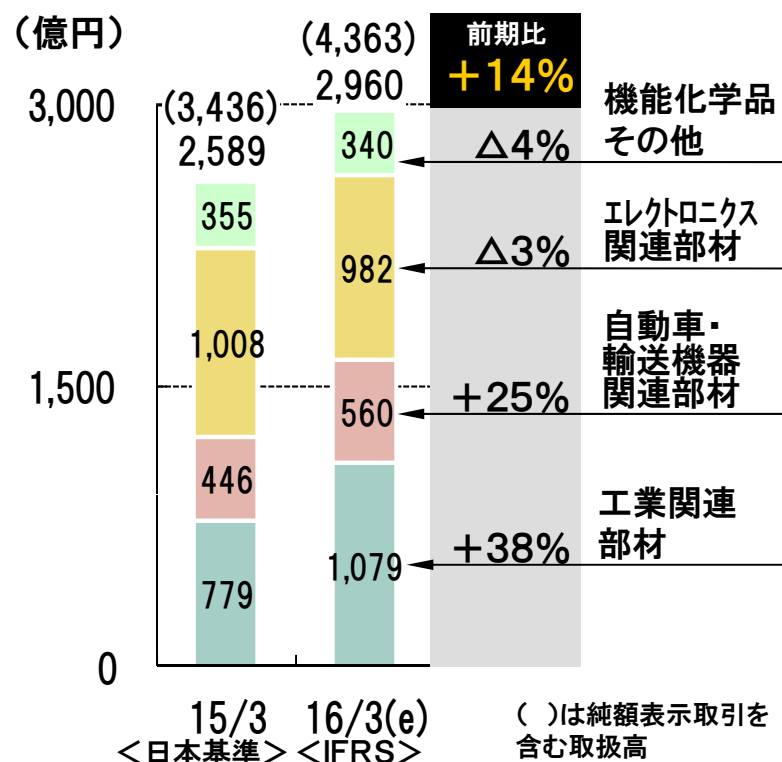


* EPC:Engineering, Procurement and Construction

ビジョン・基本戦略

1. ビジョン: グローバルフィールドで工業材料分野に強い専門商社
2. 基本方針: ①顧客密着型営業 ②事業投資戦略の推進
③サプライチェーンソリューション(SCS)の確立と展開

売上収益の推移



15年度の具体的な取り組み

- 高付加価値事業への注力による収益性の高い事業基盤の確立

自動車・輸送機器関連部材: センサー、ターボ部材
エレクトロニクス関連部材: スマートフォン用部材

- 事業投資戦略の推進

自動車部品・光通信分野への投資による事業拡大
(アセアン、ブラジル、メキシコ等)

- 素材から機能部品にいたるバリューチェーン(VC)構築による付加価値向上

- ロジスティクス・ファイナンスを含む商社機能活用によるSCS事業のグローバル展開

1. 成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオ強化
2. 事業領域・地域特性を踏まえたグローバル成長戦略の加速
3. お客様視点での事業創造力の強化

“Challenge to Change”（変革への挑戦）

全体最適意識の浸透による自律分散型組織運営の実行

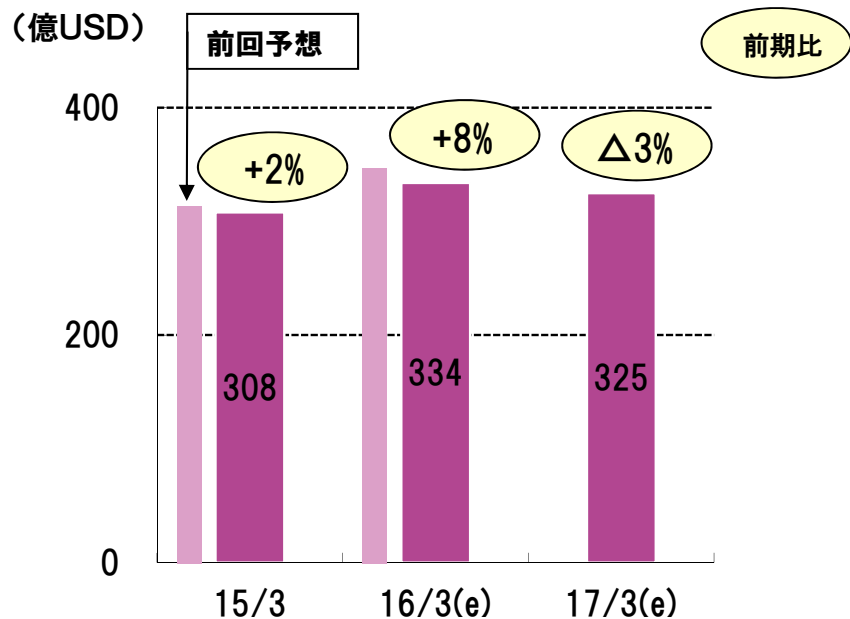
お客様の個別化ニーズにきめ細かく応えるべく、
高度に専門化の進んだソリューションビジネスを推進

5. 補足資料

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は今回予想

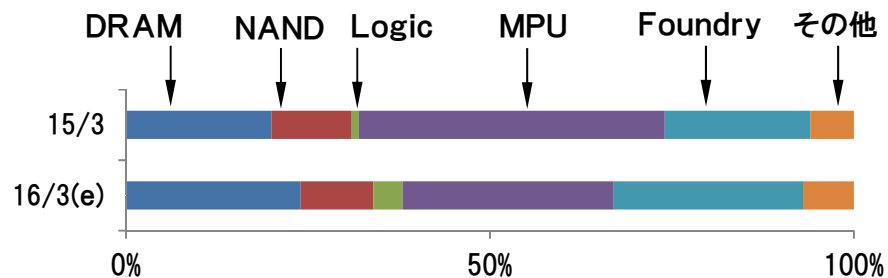
市場動向と受注高推移(電子デバイスシステム)

半導体製造装置市場(前工程)

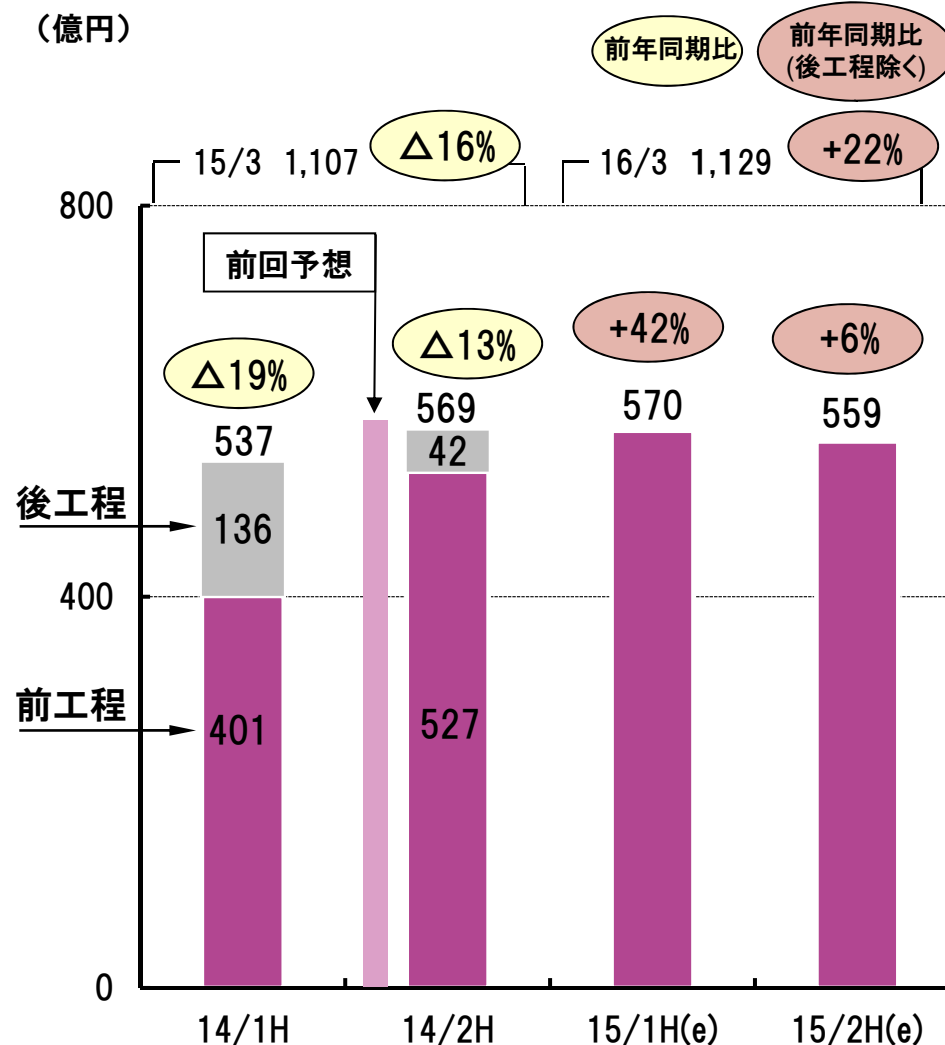


(出所) Gartner(15年4月)データに基づき当社作成
前回予想は14年10月の15年3月期2Q決算発表時の見通し

前工程装置 分野別売上高比率



受注高の推移



設備投資額・減価償却費・研究開発費 / 地域別売上高

■設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	14/3	15/3	前期比	16/3(e)	前期比
設備投資額	189	145	△23%	129	△11%
減価償却費	94	108	+15%	118	+9%
研究開発費	211	201	△5%	226	+12%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

■地域別売上高

(億円)

		日本	北米	欧州	アジア	中国大陸	その他	計
14/3	売上高	2,667	854	780	2,000	850	89	6,391
	構成比率	42%	14%	12%	31%	13%	1%	100%
15/3	売上高	2,632	650	977	2,054	824	62	6,375
	構成比率	41%	10%	16%	32%	13%	1%	100%

四半期業績の推移

(億円)

		14年 1Q	14年 2Q	14年 3Q	14年 4Q		
売上高 ／ 営業利益	電子デバイスシステム	売上高	346	300	259	339	
		営業利益	81	28	31	32	
	ファインテックシステム	売上高	12	23	14	50	
		営業利益	△6	△4	△4	7	
	科学・医用システム	売上高	388	413	396	444	
		営業利益	63	61	62	64	
	産業・ITシステム	売上高	174	213	184	278	
		営業利益	△9	6	△4	9	
	先端産業部材	売上高	644	647	651	646	
		営業利益	6	4	7	5	
	その他・調整額	売上高	△14	△12	△9	△14	
		営業利益	△1	△7	8	3	
	合計		売上高	1,550	1,584	1,496	1,745
			営業利益	135	88	99	120
経常利益			134	82	93	113	
当期利益			92	59	58	72	

主要製品群別売上高の状況

(億円)	14年1Q	14年2Q	14年3Q	14年4Q
電子デバイスシステム	346	300	259	339
プロセス製造装置	160	129	121	136
評価装置	135	100	93	185
後工程・実装装置	52	71	45	19
ファインテックシステム	12	23	14	50
社会インフラ検査	1	5	4	24
産業インフラ	12	19	10	26
科学・医用システム	388	413	396	444
電子顕微鏡	45	93	65	99
科学機器	46	64	52	86
メディカル製品	261	222	252	230
バイオ製品その他	36	34	27	29
産業・ITシステム	174	213	184	278
産業ソリューション	71	130	108	190
ICTソリューション	102	83	76	88
先端産業部材	644	647	651	646
工業関連部材	191	193	197	197
自動車・輸送機器関連部材	103	109	118	116
エレクトロニクス関連部材	260	248	251	250
機能化学品その他	90	97	85	84

<資料取り扱い上の注意>

- 本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- 当社が開示する将来の業績見通しや戦略等に関する予想は、開示時点で知りうる情報や合理的と思われる前提をもとに策定しており、さまざまな外部要因による直接的・間接的な影響により、実際の当社の業績等が開示内容と異なる可能性があります。但し、開示内容との間に大きな乖離がある場合は、法令や証券取引所が定める適時開示規則並びに当社の自主的な判断に基づき、その都度開示していきます。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

2015年3月期決算説明会資料

お問合せ先
CSR本部 CSR・コーポレートコミュニケーション部
部長 横井 芳人
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:yoshito.yokoi.jp@hitachi-hightech.com